



都城国際交流協会会報

MIA NEWS

ミア ニュース

編集発行: 都城国際交流協会
〒885-8555 都城市姫城町6-21
都城市役所 国際化推進室内
電話 0986-23-2295
FAX 0986-23-3223
http://miyakonojo-mia.com/
E-mail mia@btvm.ne.jp

中国成都国際マラソンとホームステイ

MIA会員の三浦さんの成都国際マラソンとホームステイ

11月25日から1週間、中国・四川省成都市に2つの目的を持って旅行してきました。ひとつは主目的である「成都国際マラソン」を走ること。これは昨年に引き続き成都市の元都城国際交流員の李彪さんの誘いがあり参加することにしたもので、もうひとつは李彪さんのご両親の家にホームステイして、私と同じ退職者(お父上は私の1歳下で78歳)の日常生活を体験させて頂くことでした。

李彪さんのご両親は、都城に来られた際、我が家に遊びに来られて食事をしたり、一緒に観光地を案内したり、又私が四川省を自転車旅行したとき、一緒に2~3日自転車旅行した旧知の仲です。昨年もお誘いを受けていたので、今年は思い切ってお迷惑承知で訪問、中国の退職者のリタイア生活を体験させてもらったものです。これはマラソン以上に楽しく貴重な体験をさせて頂きました。

さて、成都国際マラソンはランナー3万人の四川省最大の大会。運よく抽選に当たり参加資格を得たので、今年は都城市と重慶市江津区との友好交流都市協定締結20周年を記念して、パフォーマンスランをすべく両国の国旗と「日中友好」の文字を配した大きなワッペンを作り、胸面に大会ゼッケン背面に手作りワッペンを着けて走りました。李彪さんには「中日友好」の文字を配した同じデザインのワッペンを着けてもらいました。このパフォーマンスの影響もあって、スタート前からレース中も盛んに記念撮影「一起合影可以?(一緒に写真を撮っても良いですか?)」そして昨年同様相変わらず「你几岁?(何歳ですか?)」最後には「加油、加油!(頑張れ~!)」。外国でランの途中に声を掛けてもらえるのは嬉しいことであり元気がでます。そして絶対完走するぞ!と頑張れます。今回李彪夫妻と若い友人女性、李彪さんの元日本語教師と4人で参加しましたが、全員完走でした。(特に女性2人はいいタイムで若い女性は自己ベストタイムだった!)

マラソンを終えて少し休息を取った後、夕方から30km余り離れた李彪さんの両親宅に向かい、8年ぶりの再会をしました。



今日から3泊4日のホームステイ。李彪さん夫妻は明日からの仕事に備え自宅に戻り、中国語漬けの生活が始まりました。ご両親は日本語は話せず、私は中国語を少し勉強しただけ。特に発音が正確でないため言葉では通じないことが多い。でもあまり心配しませんでした。なぜなら共通のコミュニケーション手段をもっていたから。それは漢字による筆談! 同じ漢字文化圏の人間同士の強み、他の言語ではできない意思疎通方法が取れます。これは過去に何度か長期のサバイバル的一人旅をして経験済み。正確な発音ができなくても、単語や短い表現方法を少し知っていればかなり有効なのです。相手も何とか理解しようと努力してくれるし……。性格にもよるが、私の場合「何とかできるだろう」と思ってしまう性格も幸いしているのかもしれない。

翌日からは李彪さんの通訳がない生活、四川弁の混じる中国語がシャワーのごとく耳に届き、中国にどっぷりと浸っている実感が嬉しい。ホームステイは寝食をお世話になるだけでなく、積極的に自分もお手伝いして家族の一員に加えて貰うものと心得ており、私も日本料理を作って食べて頂きました。

実は事前に李彪さんから松茸を沢山もらい冷凍保存しているので、日本から調味料を持参して料理してほしいと頼まれていました。日本人は松茸と聞けばほとんどの人が高価な食材、是非食べたいと反応します。最近料理に興味を持っている私としてはすぐに了解の返事をし、松茸料理に必要な調味料を調達し持ち込みました。最初は李彪さん宅で調理し、友人も呼んでマラソン前夜に食べました。「松茸のすき焼き」「松茸入り中華粽」「松茸のお吸い物」の3品を作って食べてもらいました。何とかそれらしいものが出来たことと、日本の本格的な味に詳しくないことが幸いしたのでしょうか? 皆さん美味しい!と完食。



翌日のマラソンでも体調崩すこともなく(笑)良い成績で完走されたので、両親宅でも自信を持って同じメニューを作って振舞いました。ただ、ここでは食材が揃わず牛肉の代わりに豚肉の塊を切って入れ、白菜の代わりにチンゲン菜使ったので中和折衷?のすき焼きになりました(笑)。ここでも友人夫婦を呼んで食べましたが、皆さん珍しさ半分、食味半分で美味しい!と完食されました(リップサービスも含んでる……?)





ところで、私のような退職者はこの国ではどのような日常生活を送っておられるのでしょうか？興味のあるところで、滞在中ずっと一緒に行動させて頂きました。友人を交えて車で近距離の観光地(町並み保存の古鎮など)への非日常の案内などを除くと、朝食の後、公園に散歩に行き、茶館でお茶を飲み、友人達と長い談笑。昼食後はソファで休息や昼寝、午後は自宅に友人を呼んだり、友人宅に行き麻雀(もちろん夫人も)をしたり、夕食後は居住している地内の散歩や自宅でのTV鑑賞、読書など。体験したり、お聞きしたりした範囲では、日常はこのようなペース、実に悠々とした生活をされています。

もちろん家庭によってさまざまな過ごし方がありますが、感心したのは、退職者どうして多くの家族とお付き合いされ、連帯感を持ち、散歩などで積極的に体を動かし、茶館などで友人たちとコミュニケーションを取り、麻雀などで脳

の活性化を図ります。なかには孫の面倒を見ている方もいて、こちら家族の連帯感を大切にされているように見えます。ほんの一端を見たに過ぎませんが、自分を振り返ってみると実にバランスの取れた生活をされているように感じました。少なくとも私より余裕のある家庭であることも含めて実に羨ましい限りです。自分もせめて時間の使い方だけでも参考にしたいと思いました。

今回の体験が出来たのも日頃から国際交流に興味を持ち、外国の人との交流を継続して持ち続けてきたからこそ実現したもので、体験させて頂いたことに感謝すると共にこれから交流は継続して行きたいと思っています。

あちらこちらの国を旅行して「日本の常識は世界の常識ではない」と理解しているつもりですが、今回も色々なことに遭遇しました。建造物や食べ物、人々の行動や考え方、特に中国で何時も思うことは日本とは物差しが違う？と思うこと、今回はその1つを紹介したいと思います。マラソンを完走すると大きな大会では「完走メダル」が貰えます。今回貰ったメダル(写真)は昨年「鹿児島マラソン」でもらったメダルの重さ5.1倍、大きさ(面積比)は3.5倍でした！そして複雑な作り、日本ではあり得ない大きさとデザイン！完走して首にかけてもらった時ズッシリと重く、肩が凝ると思うほどでした(笑)



海外を旅行する楽しみのひとつは、日本には無いその国の常識に出会うこと・・・今回も沢山出会えました！！



都城市ウランバートル市友好交流都市締結20周年

～モンゴル国際交流員 ソヨルマーさんによるモンゴル紹介～

都城市ウランバートル市友好交流都市締結20周年
Мияаконожо хот болон Улаанбаатар хотуудын
хооронд Найрамдалт харилцаа
тогтоосны 20 жилийн ой

今月の記事のタイトルは日本語とモンゴル語で書きました。

11月24日(日)、都城市とモンゴルの首都ウランバートル市、中国の重慶市江津区との間で友好交流都市締結の20周年記念式典が都城市総合文化ホールであります。

式典には、両都市からの代表者をお招きし、様々なイベントが開催されます。

当日は、3か国音楽祭、モンゴルと中国の民族衣装試着できるブースや文化紹介の展示コーナーなどがあります。

3か国音楽祭では、ユネスコの無形文化遺産に登録されたモンゴルの伝統的な楽器、馬頭琴や喉歌のホーミーの演奏、モンゴル舞踊、中国の二胡の演奏、日本の三味線の演奏もあります。ご都合がつかれる方は、ぜひ会場までお越しください。入場は無料ですが、当日は入場券が必要です。詳しい内容は都城市役所国際化推進室、電話番号23-2295までお問い合わせください。ご来場の皆様にご記念品を用意しております。



※ウランバートル市のシンボルマーク
仏教の架空の鳥“ガルダ”

頭の上に国家と学問のシンボルとなっている“ソヨンボ”、右手の鍵には大勢の人々を暖かく受け入れる“ようこそ”の意味を込め、左手の蓮の花は、永遠に健康で幸せな生活を送ることを願い、悪と喩えた毒入りヘビを足で捕まえているのは、悪いものを根元から切り止め消滅させることを意味しています。

協会情報

◇ワールド・フェスタ in みやこのじょう2020

ワールド・フェスタへの参加及びご協力して下さる団体、個人、ボランティアスタッフを募集しています。

(都城市又は三股町にお住いの方)。

日時: 2020年1月19日(日) 12:00~17:00

会場: 都城市総合文化ホール(MJ)

イベント内容: 海外の国や地域の紹介など。

募集対象: 国際交流、国際協力や多文化共生など

ワールドフェスタの目的に沿うもの。

募集内容:

①国や地域の紹介ブース(モンゴル国、中国は除きます)

体験交流できるもの。展示のみは不可

②国際交流、国際協力等の団体活動紹介コーナー

パネル展示

③個人、団体でのステージ発表

外国の方による歌やダンスなど。

時間は3分~10分以内

④ボランティアスタッフ

・前日の会場設営準備(荷物運搬やパネル設置など)

・当日のブース準備、終了後の片付け

・国紹介ブース補助、ステージ受付・案内

・ステージ裏補助等

*希望者多数の場合、調整させていただきます。

申込み締切: 2019年11月29日(金)

詳しくは都城国際交流協会まで電話、E-mail等でお問い合わせください。

編集部より

10月20日から23日にウランバートル市創立380周年式典が開催され、岩崎副市長、吉永総合政策部長、文化披露として津軽三味線日本一になられた石井秀弦先生とウランバートル市を訪問しました。会場には、ウランバートル市と友好都市である15都市60名の方が参加され、レセプションでは、モンゴルの伝統文化芸能が披露され、多くの都市の方と交流をしました。日本文化の披露は、石井秀弦先生が圧巻の演奏で会場は大盛況でした。この内容は、BTVケーブルテレビの「モンゴルは今」で放送されますので、ぜひ、御覧ください。 [森重]

「えっ!? 日本語じゃなくて外来語なの?」シリーズ③★

前回の【背広】のように、今ではすっかり馴染みの「日本語」として定着しているけど、実はその語源は、「外来語」だったんだあ〜って言葉を御紹介していきたいと思います。

第3回目の今回、御紹介するのは、【瓦(かわら)】。諸説ありますが、南アジア地方で古代に使われていたサンスクリット語の「覆う(おおう)」を意味する【kapala】(カパーラ)に由来すると言われてます。中国、朝鮮半島を経て日本に伝わったのは、今から1400年以上も前の飛鳥時代だとされており、仏教伝来のころと等しく、瓦が普及していったと考えられているそうです。

いやあ〜、びっくりしました…次回もこんな感じで御紹介していきます!! [西畑]

息子のサッカーの試合に鹿児島県日置市に行って来ました。夕方、日が東シナ海に沈むのをはじめてみました。都城は山に日が沈みます。改めて地球は丸いなあと思いました。 [山内]

朝、職場に行く途中、近所の方が“黄色い米”を少しかけているのを見かけます。仕事の帰り道に、同じ場所に粒一つも残ってないので、「常連客」が美味しくいただいたことを確認できます。そういえば“黄色い米”を日本語で何と言うのだろうと思って、外国人の使う日本語に慣れている同僚に聞いたら、すぐに“粟”と教えてくれました。また、“濡れ手で粟”という言葉も覚えました。モンゴルでは、粟に例えるならば“数が多い、量が多い”という時に使われる場合が多いです。

モンゴルでの粟の食べ方といえば、栄養が豊富のため、幼稚園で牛乳と一緒に煮込んで、バターと砂糖で味付けして、朝食として出されます。一般家庭では、粟を使った日本の雑炊のような料理が定番

です。

[ソコ]

みなさん、「春捂秋冻」の「秋冻」の時期になりました。春の時も紹介した中国の「春は厚着に、秋は薄着に」ということわざです。つまり、暖かくなったからといってすぐに薄着になってはならず、寒くなったからといってすぐに厚着にしてはならないという健康法です。冬になる前には、しばらく薄着で身体を慣らしておくと、寒くなくても風邪をひきにくくなると中医学では考えられています。ただ南九州にある都城の秋はあるようで、ないような気がして、気付いた時、もう既に冬になっていました。 [銭]

伝統文化の重要性を話すと、同化と並行的社会の二つに分けられています。たった118年の歴史のオーストラリア人は、住んでいる地域の伝統文化より、先祖の伝統文化を持っているので、同化できる文化がないと言われてます。すなわち、国民の一人として、自分の伝統文化を普及しながら、他の皆さんの文化を接すれば、個人的に成長し、国民を全般的により充実する生活に導くでしょう。

こういうオーストラリア人が来日する時、日本のような単一民族国家が本当に存在しているのは本当に驚くほど意外です。数千年の歴史がある社会で、移民問題や多文化共生の話の中、並行的社会、同化、又は統合化が重要な事は言うまでもありません。簡単な解決方法はないですが、議論できる面白い点、複数あります。今日、最後に紹介したい考え方はこれです:

「唯一の世界中、何よりも大切にしないといけない伝統文化なんて存在していない。」 [ジョージ]

先日スーパーに「むかご」が売ってました。それは山芋(自然薯)の蔓に付く実ですが、小さい頃は山に採りに行き、針金を通して風呂の釜口の灰の中に入れて焼き食べたものです。懐かしさのあまり買ってフライパンで炒って食べました。とても懐かしい味でした。 [藤元]

娘は最近混乱しています。中国の銭(セン)ちゃんと、モンゴルのツェンちゃん。聞いたことのない音でも何度か聞いていたうちに、聞き取ったり発音したりできるようになるのかなと思っていましたが、「ツェ」の音はなかなか難しいようで、今は、中国のセンちゃんとモンゴルのセンちゃんがいることになっています。 [迫田]